

待ち遠しい我が家の大イベント  
大崎市立古川第二小学校5年 渡辺 沙羅

「今日のお米は何でしょう」

帰宅して夕食のテーブルを囲む父に、クイズを出しこの時だけは私はドヤ顔。我が家は常に数種類のお米をそろえており父の味覚を試せるのです。

「つぶが小さめだ…。甘みが強い。ねばり感は…。」。

そう言いながらお米の種類を当てていくのです。一方的に種類を変えてクイズを出す私達に、いつも真剣に考えて当ててきます。お米の種類だけでなく

「今日は沙羅が炊いたでしょう」

とまでぴったり正解することが多いのです。その度に私は不思議な気持ちになります。お米一粒一粒に私の名前が書いてあるわけでも、私の顔が写っているのでもないのになぜ誰が炊いたご飯なのかまで正解してしまうのか不思議でしかたありません。

「なんでわかるの？」

その間にニヤッと笑って今度は父がドヤ顔。

留守番を任せられるようになり、夕方のご飯の予約を頼まれることがあります。この時はいつも以上にドキドキします。もし炊けていなかったら、家族全員の夕食が台無しになってしまう。責任重大です。スイッチの押し忘れがないか何度も確認し、炊き上がりを知らせるメロディーが鳴るまで落ち着きません。メロディーが鳴りホッとしたのもつかの間。

「今日は固めだね」

少しがっかりした私の顔を見てから次が楽しみになると少し固めのご飯でもおかわりし、チャーハンだと良いかもねとアドバイスしてくれるのです。

もうすぐ新米の季節。この時はより一そう炊飯器を開ける時の盛り上がりを見せます。炊き上がりのメロディーが鳴ると、炊飯器を家族で囲み

「開けますよ。オープン！」

「うわー。つやつやできれいだね」

湯気に私達も包まれながら、水分が光に反射する様子をじっと見てからお塩をかけてお米本来のそのままの味を楽しむのが毎年こう例イベントになっています。

新米でお米の色やつや、香りを味わい、徐々に季節毎の炊き込みご飯に変身するのも楽しみが増します。むかごご飯、松茸ご飯、たけのご飯、グリーンピースご飯。いろいろな色や味に変身したご飯もおしゃれを楽しんでいるように見えます。

新米が我が家にやって来る日まであとわずか。今年は何種類のお米と出会えるか。何回炊飯器を囲んで行う一大イベントが開催されるか楽しみになってきました。いつもおいしいお米を食べられることに感謝したいです。

何だか今日もクイズを出したくなってきました。

「今日は沙羅が炊いたね。おいしいよ。」

この言葉を思い浮かべて笑顔でご飯を炊く私。